

第1学年A組 国語科学習指導案

授業者 工藤 優花
研究協力者 成田 雅樹、高橋 菜由
教材分析協力者 岡 英里奈

1 単元名 オリジナルじどう車カードゲームであそぼう～じどう車くらべ～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

小学校に入学して初めて学習した説明的文章「つぼみ」では、問いと答えを確かめたり、つぼみの形や開き方の動作化を通して、叙述を具体的に想像しながら読み取ったりした。学習後には、自分の育てているアサガオや昇降口前の池に咲いている蓮のつぼみや花を観察して、「教科書と同じだ。」「他の花はどんなつぼみか見てみたいな。」と学習した内容を日常生活に広げる姿が見られた。

しかし、教材文の内容に興味をもつ一方で、すべての花が同じ順序で説明されていることに気付いた子どもは少数で、説明の順序を意識している子どもは少ないのが現状である。

また、普段の生活の様子から、自分の言いたいことを相手にうまく伝えられず、十分に意思の疎通ができない子どもたちの姿も多々見られる。これは、自分の気持ちと行動のつながりを考えられなかったり、順を追わずに話してしまったりすることが原因だと考えられる。

本単元の学習を通して、情報と情報の因果関係や説明の順序のよさを考える力を高める姿を期待する。

(2) 単元について

教材文「じどう車くらべ」は、3種類の自動車の「しごと」と「つくり」を紹介している文章である。どの自動車も「しごと」→「つくり①」→「つくり②」の順で説明されている。また、「しごと」と「つくり」には因果関係があり、「つくり」同士の関係にも重要度に違いがあったり、並列的に提示されていたりするなど自動車ごとに違いがある。

情報と情報の関係や説明の順序の大切さを考えられるように、お気に入りの自動車を選んで作ったカードで遊ぶ活動を設定する。子どもたちは、普段からかるたや算数科の数カードを使った神経衰弱、ばば抜きなどカードゲームに親しんでいるため、関心が高く、「しごと」と「つくり」の関係を捉える上でも有効だと考える。また、一文にまとめたカードを操作することで、何度でも並び替えられたり、文の順序を入れ替えることによる効果や印象の違いを比較したりできるというよさもあると考える。一人一人が選んだ自動車について「しごと」と「つくり」を調べ、調べた自動車の「しごと」と「つくり」の関係や「つくり」同士の間接関係を考える活動を取り入れることで、情報と情報の関係や説明の順序についてより深い理解を図りたい。また、次の単元「じどう車ずかんをつくらう」を見据え、「つくり①」→「つくり②」の順序にも工夫があることに気付くことができるようにするためにも、作ったカードを操作する活動が有効であると考えられる。

本単元では、車の「しごと」と「つくり」や「つくり」と「つくり」という情報と情報の因果関係及び「つくり」の説明の順序について考え、読み取ったことをカードの作成や遊びに生かそうとしている姿を「学びのものさし」を働かせる姿だと捉える。「しごと」と「つくり」及び「つくり」と「つくり」の関係や、順序よく説明することの大切さについて考えるという資質・能力を高めることを目指す。

(3) 指導について

言葉に対する解釈のずれや、話し合いにおける対立点、疑問を明らかにしながら学びを進めていくために、「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の間接関係を目に見える形で提示したり、体験したりしながら話し合う場を設定する。言葉に対するイメージの違いを可視化することで、互いの解釈のずれを意識できるようにする。

また、お気に入りの自動車を選んでカードを作り、そのカードを使ってゲームをする活動も取り入れる。カードを作成するためには、重要な語や文を考えて選び出す必然性が生まれる。さらに、自分で様々な自動車について調べてカードを作成することで、より多様な種類の自動車の「しごと」や「つくり」を比較しながら読むことができる。カードを作成する上で、「しごと」に対する大事な「つくり」を選ぶことができない子どももいることが予想される。友達とカードゲームをする中で、友達の作ったカードに疑問をもつこともあるだろう。そのような課題意識をもった上で、カードの情報と情報との関係の妥当性や、「つくり」の説明の順序が意味することについて考える機会を設定することで、自分の選んだ言葉についてより深く考えられるようにしたい。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えたり、文章中の重要な語や文を選んだりすることができる。 (C-21、22)
- (2) 教科書や、作成したカードを基に、「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係など、情報と情報との関係について考える。 (B-9、C-18)
- (3) 説明の順序や、情報と情報との関係を考えながら読もうとしている。 (エ)

4 単元の構想（総時数8時間）

うみのかくれんぼ
文章の中の重要な語を選び出したり、事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えたりする。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1	(1) 本文を読み、「問い」と「答え」を確かめる。 (2) バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取る。 ・問いが二つあるね。 ・「しごと」が一つと「つくり」が二つ書かれているね。	・「しごと」と「つくり」の関係について考えることができるように、色分けしたカードを準備する。	・「問い」に対する「答え」を読み取っている。〈C-22〉 ・バス・乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取っている。〈C-21〉
2 ・ 3	(3) トラックの「しごと」と「つくり」を読み取る。 ・トラックは、荷物をはこぶ仕事をしているんだ。 (4) クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。 ・クレーン車は、重いものをつり上げる仕事をしているんだ。 ・あしはなんのためにあるのかな。	・文中に示されている事柄の順序を捉えることができるように、カードを操作しながら考える場を設定する。 ・単元の見通しをもつことができるように、教科書や図書資料を基にして作成したカードでゲーム大会をすることを提案する。	・トラックの「しごと」と「つくり」を読み取っている。〈C-21〉 ・クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取っている。〈C-21〉
<p>学習課題 みんなでたのしめるカードゲームをつくろう。</p>			
4 ・ 5	(5) 自分で好きな自動車を選んで調べ、「しごと」と「つくり」をカードに書く。 ・僕は、消防車のことが知りたいな。 ・消防車のつくりはたくさんあって、どれを書こうか悩むな。	・子どもたちが関心に応じて、並行読書ができるように、事前に教室内に「自動車コーナー」を設ける。	・図書資料から、書くために必要な「しごと」と「つくり」を書き出し、伝えたい内容に必要なかどうか確かめながら書いている。〈B-9〉
6	(6) 自分たちで作成したカードを使ってカードゲームで遊ぶ。 ・ハンドルはどの車にもあるから、いろいろなカードじゃないかな。 ・「つくり」のカードが5枚もあるけどどれが大切なのかな。	・カードゲームで遊ぶ中で、「しごと」と「つくり」の関係や、事柄の順序に目を向けることができるように、カードを作った友達に疑問点を質問する場を設定する。	・「しごと」と「つくり」の関係を考えながら、ゲームに参加している。〈C-18, 21〉
7 本時	(7) ゲームをする上で、「しごと」と「つくり」が適切に結び付いていなかったり、「つくり」の並べ方が分からなかったりしたカードについて話し合う。 ・ごみ収集車のドアの「つくり」は、「しごと」とは関係ない気がするな。 ・ごみ収集車の「つくり」はどんな順番で並べたらいいのかな。	・「しごと」と「つくり」の関係を考えることができるように、教材に掲載されている自動車について振り返ったり、「つくり」の重要性を体感する様子を見たりする場面を設定する。	・自分や友達の書いたカードの「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係を理解している。〈C-18, 21〉
8	(8) カードゲーム大会をする。	・単元の学習を振り返ることができるように、改めてカードで遊びながら、「しごと」と「つくり」の関係や、事柄の順序について考える場を設定する。	・前時までの学習を基に「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」の順序を考えながらゲームに参加している。〈エ〉

◎本単元で育む主な資質・能力
「しごと」と「つくり」及び「つくり」と「つくり」の関係や、順序よく説明することの大切さについて考える。〈C-18, 21〉

じどう車ずかんをつくろう
事柄の順序など情報と情報との関係について理解し、簡単な構成を考えて「じどう車しょうかいカード」を書く。

5 本時の実際 (7/8)

(1) ねらい 自分や友達の書いたカードに着目し、カードの内容について話し合ったり「つくり」の重要性を体感したりする活動を通して、「しごと」と「つくり」の関係や、事柄の順序について理解することができる。 (C-18,21)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
5分	<p>① 学習問題を確認する。</p> <p>—めあて— どんなじゅんばんでならべたらいいかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動に見通しをもつことができるように、「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の順序について困り感をもった子どもの振り返りを発表する場面を設定する。
25分	<p>② 「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係について疑問をもったカードについて話し合う。 (グループ・全体)</p> <p>○【「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係について考えている子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を乗せて運ぶ仕事をするためには、座席が広くないといけないね。 <p>△【「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係について迷っている子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料には、「つくり」がたくさん書いてあるけど、何を書いたらいいんだろう。 ・消防車は、水が出ることもサイレンが鳴ることも大切な「つくり」だと思うけど、どっちが大事なのかな。 <p>△【「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係について考えていない子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パトカーにはハンドルやタイヤがあるね。 ・消防車は赤いところがかっこいいからカードにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係について考えることができるように、「しごと」との関係が薄い「つくり」を書いているカードや、「つくり」の並べ方に困ったカードを意図的に取り上げる。 ・「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係を捉えることができるように、教材文に掲載されている自動車を想起したり、「つくり」の重要性を体験する様子を見たりする場面を設定する。 ・「しごと」に対する「つくり」の関係の深さや「つくり」同士の関係によって、「つくり」の順序が変わることに気付くことができるように、「つくり」の順序を入れ替えて読む場面を設定する。
10分	<p>③ 自分たちの作ったカードを見直す。 (個・グループ)</p> <p>○【「しごと」と「つくり」の関係について考えている子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料には、「つくり」がたくさん書いてあるけど一番「しごと」に関係のある「つくり」を探してみよう。 <p>○【「つくり」同士の関係について考えている子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防車は、水が出ることもサイレンが鳴ることも大切だけど、水で火を消す「しごと」をするためには、水が出ることの方が大切かな。 <p>△【「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係について考えていない子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パトカーにはハンドルもタイヤもあるから、どっちが大事か分からないな。 ・消防車はどの「つくり」も大事そうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ自動車の「しごと」と「つくり」が適切に結び付いているかや、「つくり」同士の関係を確認することができるように、図書資料を読み返しながら話し合う場を設定する。
5分	<p>④ 本時の学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」に対する「つくり」には、関係の大きさに違いがある。 ・「つくり」同士の関係にも違いがある。 ・「しごと」に対する「つくり」の関係の大きさや「つくり」同士の関係によって、順番が変わるんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の変容に気付くことができるように、自分の作ったカードが本時の活動で取り上げられたどのカードに似ているか考える場を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分や友達の書いたカードの「しごと」と「つくり」の関係や、「つくり」同士の関係を理解している。 (C-18,21) (発言・カード)</p> </div>

令和6年度 国語科実践・研究計画

部 員	○鎌田 佳佑、工藤 優花、菅野 宣衛
-----	--------------------

研究テーマ
自覚的に言葉の力を働かせ、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び

1 研究テーマについて

国語科の学習は、これまで何気なく使ってきた言葉を学習の対象として意識的に捉え直すことで、自らの「言葉の力」を更新することである。この「言葉の力」は、情報の獲得・発信や他者とのコミュニケーションなど、日々の生活の中で行われる様々な言語活動の基盤となる。

言葉の選び方、使い方一つで受け手の印象が変わる。言葉の解釈の幅が、対象の正しい理解や豊かな想像につながっていく。教材を越えて「言葉の力」と日常生活とのつながりが見えてくる。言葉を深く学び直す機会は、国語を学ぶ意義や楽しさの実感につながるが、生涯に渡って言葉とよりよく向き合おうという気持ちを育むであろう。

昨年度の実践で、目的に応じてミニ・レッスンやホットシーティングを授業に位置付けることで、解釈や表現を見つめる「学びのものさし」を共有する場となったり、解釈や表現の選択肢を広げ、選択・決定をしたりする子どもの姿が見られた。一方で、より自律的に言葉と向き合う子どもの姿を引き出すためには、子ども自身が他者に働きかけてたくなるような、言葉に対する「問い」が生まれる活動の工夫を考へる必要性が見えてきた。個の学びと協働の学びを往還する中で「学びのものさし」を活かして言葉に関する「問い」と向き合い、言葉の使い方や解釈を更新していく子どもの姿を期待し、本テーマで実践を積み重ねていく。

国語科で目指す自律した子どもの姿

- ・ 根拠をもって自らの解釈や表現を吟味し、言葉を正確に理解してよりよく表現しようとする姿
- ・ 言葉の効果や言葉に着目した学び方のよさを自覚し、単元を越えて活用する姿



図：国語科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 (○は具体的な取組の例)

よりよい解釈や表現を生み出す言葉に関する「問い」を、「学びのものさし」を活かして吟味する場の設定

- よりよい解釈や表現について、主体的に再検討する姿を引き出すために、解釈のずれや対立点、疑問を明らかにする。また、自らがどのような言葉の力を用いながら学習に臨んでいるのか自覚した上で、「学びのものさし」を活用できる活動の工夫をする。
- 子どもの実態に応じて「自分の考えはどのように変わったのか」「なぜ、そう考えたのか」「学んだことは何か」という視点で、自分の言葉に関する選択・決定を振り返る場を設定する。

令和6年度「国語科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容		学習指導要領との関連内容			1年	2年	3年	4年	5年	6年
		1・2年	3・4年	5・6年						
国語科の学びに向かう力、人間性等	ア 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■
	イ よりよい話し方、聞き方を意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。	A	A	A	■	■	■	■	■	■
	ウ 自分の思いを書いて伝えることよさを見付けたり楽しさを感じたりしながら、進んで書こうとする。	B	B	B	■	■	■	■	■	■
	エ 書かれている事柄の順序や文章の構成、場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして読もうとしている。	C	C	C	■	■	■	■	■	■
	オ 表現したり理解したりするために、必要な語句を進んで増やそうとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■

国語科の各領域の付けたい力 A話すこと・聞くこと	1 場に応じて、適切な声量や速さで、はっきりとした発音で話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	■	■	■	■	■	■
	2 結論を先に、理由を後につけて発言する。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	3 身近な出来事について、適切な長さでスピーチをする。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	4 相手との関係や、その場の状況に応じた言葉遣いで話す。	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	□	□	□	■	■	■
	5 傾きや眼差しなどで相手に反応を示しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	■	■	■	■	■	■
	6 話の内容を落とさず、間違いなく聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	7 話の中心点を理解して聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	8 身近なことや、自分が経験したこと、観察したことなどの中から話題を決める。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	9 日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うことなどから話題を決める。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	10 学校や家庭、地域のことなどで興味や関心をもっている事柄を想起し、一つの話題に絞る。			A(1)ア					□	■
	11 話すために必要な事柄を思い出して書き出す。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	12 本や文章を読む、人に聞く、図表や絵、写真などを見るなどの方法から選択し、調べたことの要点をメモする。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	13 取材した内容を比較したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かす。			A(1)ア					□	■
	14 相手の話に対する賛否を明確に表す。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	■	■	■	■	■	■
	15 相手の話の口を挟まずに聞く。	A(1)エ	A(1)エ、知(1)イ	A(1)エ、知(1)イ	■	■	■	■	■	■
	16 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。	知(1)キ	知(1)キ	知(1)キ	□	■	■	■	■	■
	17 起こった事柄の順序にしたがって話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	18 分かったこと、考えたことについて、筋道を立てて話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	19 大事な事柄から話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	20 聞き逃したことを問い返したり、不明確な点や確かめたいことを問いただしたりする。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	■	■	■	■	■
	21 図表や映像を提示したり、身振りや手振りで内容を補ったりして話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	□	□	■	■	■	■
	22 複数の事柄を比較しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	23 必要な情報を選んで聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ		□	■	■	■	■
	24 話し合ったことを基に、自分の問題意識を深めたり、焦点化したりする。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	□	□	■	■	■	■
	25 聞いたことを正確に再現して話す。	A(1)アイ	A(1)アイ	A(1)アイ	□	□	■	■	■	■

8	ひとまとまりの語や文として音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
9	言葉の響きやリズムなどに注意して音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	■	■	■	■	■
10	強弱や間の取り方、抑揚の付け方などに注意して、読み取ったことがよりよく伝わるように音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	□	■	■	■	■
11	文章全体の内容や構成からその中心を把握し、軽重や速さなどを考えて音読する。		知(1)ク	知(1)ク			□	■	■	■
12	七音五音を中心としたリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	□	□	□	■	■	■
13	語り手や登場人物の人物像をとらえ、どのように語りたかを決め、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気を付けて音読する。		知(1)ク	知(1)ク				□	■	■
14	文章全体に対する思いや考えをまとめ、そのことを相手に分かってもらえるように表現性を高めて朗読する。			知(1)ク					□	■
15	目的に応じて、「比べ読み」「速読」「摘読」「多読」など多様な読み方を選択し、活用する。			知(1)ク					□	■
16	書かれている事柄の違いを比較することで、その意味が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
17	説明されている事柄の位置関係や構造を、図示したりしながら正確に理解する。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
18	事柄の原因と結果の関係が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
19	話の筋や論理の展開が分かる。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	■	■	■	■	■
20	書かれていることの特異性と一般性、具体性と抽象性の類別をして、文章の構造や内容を理解する。		C(1)ウ	C(1)ウ		□	□	■	■	■
21	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら文章の大体を読む。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
22	「問い」と「答え」という基本構成をとらえ、「問い」に対する「答え」を読み取る。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	■	■	■	■	■	■
23	「始め」「中」「終わり」の文章構成をとらえ、中心となる文を手がかりに要点をまとめる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア		□	□	■	■	■
24	「序論」「本論」「結論」の三部構成をとらえ、中心となる段落を手がかりに文章の要旨をとらえる。		C(1)ア	C(1)ア				□	□	■
25	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係をとらえながら読む。		C(1)ア	C(1)ア			□	■	■	■
26	中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	■	■	■
27	筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているかをとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
28	事実を説明している言葉の指し示す範囲に揺れがないかどうか考える。		C(1)アウ	C(1)アウ				□	□	■
29	文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方、巧みな叙述などに注意して、求められている分量や表現の仕方に合わせて要旨をとらえる。			C(1)ア					□	■
30	筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験、考えたことと関係付け、自分の考えを明確にしながらか読む。			C(1)アオ					□	■
31	文章構成を区分することによって、文章の要旨や主題を的確にとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
32	図表や、絵、写真等が、どのように文章を補っているかを考えながらか読む。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	□	■	■
33	筆者の書き方の工夫やよい点・不十分な点を考えながらか読む。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	□	□	□	■	■
34	筆者の主張の根拠が適切かどうか考えながらか読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	■
35	結論と具体的事例の整合性を判断しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ					□	□
36	筆者の推論や解釈、例示などの妥当性を吟味しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ					□	□
37	物語に共感し、書かれていることの実偽や善悪、美醜、有用・無用の判断をしながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
38	事柄や人物の設定(誰が・いつ・どこで・何をした)が分かる。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
39	物語の展開に即して各場面の様子が変わったり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握し、その様子を想像しながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	□	■	■	■	■	■
40	登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、それらの人物像を読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	□	■	■
41	人物描写の特徴から、その人物のものの見方や考え方の特徴や言動の変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	■	■	■
42	物語のクライマックスを見つけ、そこで起きている出来事から分かる強調点や変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	□	■	■
43	各場面の様子に気を付けながら場面と場面を関係付けて読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	□	■	■
44	物語や詩の描写を、想像力を働かせながらか読む。		C(1)エ	C(1)エ			□	■	■	■
45	書かれていることを基に問いをつくり、答えを仮定したり根拠となる言葉を探したりする。		C(1)イエ	C(1)イエ		□	□	■	■	■

46	題名や見出しから、文章の要旨や主題を推察する。		C(1)イエ	(1)イエ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
47	情景描写の特徴から、作品主題との関連や人物のものの見方や考え方のありようを考える。		C(1)イエ	C(1)イエ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
48	一つ一つの事件・出来事の関連性から見出される意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
49	ストーリーの展開に気を付け、描写の特徴や言葉の象徴性など、読み取ったことがより豊かに伝わるように朗読する。		知(1)ク	知(1)ク				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
50	登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている心情を読む。			C(1)エ						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
51	句読点の打ち方の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
52	反復が強調している事柄の意味が分かる。			知(1)ク	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
53	助詞や助動詞の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
54	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割が分かる。	知(1)カ	知(1)カ	知(1)カ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
55	文末表現によって文の意味合いが変わってくるのが分かる。	C(1)イウ	C(1)イウ	C(1)イウ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
56	漢字・ひらがな・カタカナなどの表記の違いによって、多義的になったり、意味が限定されたりすることに気付く。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
57	オノマトベ(擬声語・擬態語等)の表現によって強調される意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
58	比喩表現(直喩・隠喩・擬人法等)によって強調されている意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)ク		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
59	省略、倒置、対句など、構成上の表現の工夫によって強調される意味・内容があることが分かる。			知(1)ク				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
60	使われている語彙・表現の多義性や象徴性を考える。			知(1)オ						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
61	象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、それらを評価したり、自分の表現に生かしたりする。			C(1)オ						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
62	自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文を適切に書き抜く。	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
63	自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意して読み、引用したり要約したりする。		C(1)ウ	C(1)ウ				<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
64	感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して、自分の考えを感想文や解説文などにまとめる。			C(1)カ						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
65	文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめて発表し合い、交流する。(劇、話し言葉による発表・交流、書き言葉で表したものを読み合う)	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
66	楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
67	身近な生活や自身の問題意識に基づいて選択する図書分野を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
68	複数の読み物の内容から、共通点や違いを見つけてながら読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
69	筆者や作者、ジャンルなどの関連を意識して、読書の幅を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
70	同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ筆者の複数の本や文章を選んで、読み比べる。			知(3)エ						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
71	見出し・記事・写真の一貫性や「逆三角形の構成」など、編集の仕方や記事の書き方などに注意して新聞を読む。		C(1)ア	C(1)ア						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
72	昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
73	優しい文語調の短歌・俳句について情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。		知(3)ア	知(3)ア				<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
74	ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る。		知(3)イ	知(3)イ				<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
75	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。			知(3)アイ						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
76	古典の解釈文を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。			知(3)イ						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

<国語科の学びを支える「見方・考え方」>

a 自分が伝えようとしている内容と言葉の関係に着目し、最も適した語句や表現技法を選び、その特長を活かして表現する。

b 語句の関係や表現技法の差異に着目し、文や文章表現の意味を豊かに、かつ具体的に理解する。

<領域の学びを深める「見方・考え方」>

話すこと c 音声の使い方、言葉や文末表現、表情などに着目して、その場に最も適切な表現を考える。

聞くこと d 相手の伝えようとする話の内容に着目して、自分の考えと比べるなどして共通点や相違点、関連などを整理しながら考えをまとめる。

書くこと e 目的や意図に応じた表現や文章構成になっているか、読み手の立場から、相手が読んで理解しやすいか考える。

読むこと f 構成や叙述に着目し、言葉や文を関係付けながら読む。